vol.16　ドリアンスケールの使い方について　～その 2～

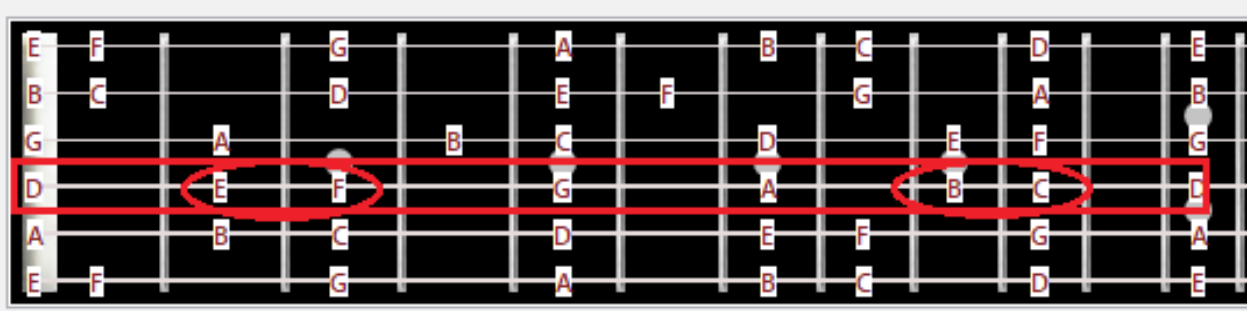
では、vol.16、始めていきましょう。

ドリアンスケールの 2 回目ですね。今回は代表的なスケールポジションと、その構造について見ていきたいと思います。

以前もお話ししましたが、ダイアトニックスケールを把握する上で重要なポイントの一つは、「二つの音が半音で接する部分」でしたね。

ドリアンスケールの場合「M2nd と m3rd」、「M6th と m7th」の部分がそれにあたります。

・D ドリアンの構成音(赤字は半音で接する部分)
D(tonic)、E(M2nd)、F(m3rd)、G(P4th)、A(P5th)、B(M6th)、C(m7th)、



これらの音を見てみると、m3rd である F 音は、「それがマイナー系のものである」と分類されることになる重要な音。(※これが M3rd の F♯だとメジャー系のスケールになる)

M6th である B 音は、ここが m6th の B ♭音になると、ナチュラルマイナースケールになってしまうので、ドリアンを特徴づける音ですね。

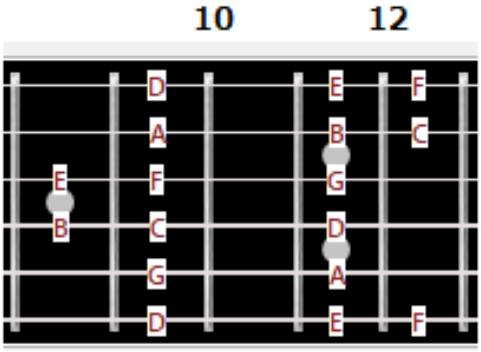
この様に、二音が半音で接するポイントは、多くの場合、そのスケールの特徴を表しています。(※リディアンもそうでしたね)

これは、通常の調性音楽的な考え方でも、今学んでいるモード的な考え方でも、非常に大事な要素なので、困った時はそこに注目すると、答えが見つかる可能性が高いです。

それでは、具体的なポジションですが、まずは 6 弦トニックから見ていきましょうか。

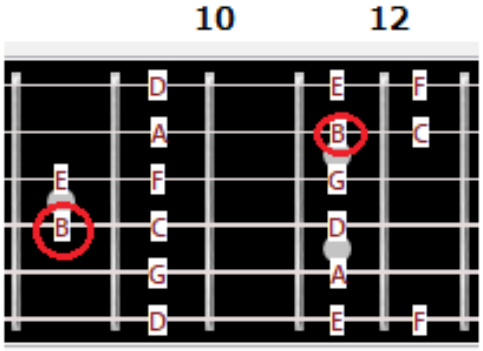
前回も、リディアンの時も出てきましたが、ドリアンと言ったら、大方、まずここが挙げられる様なポジションです。

Copyright (C) 2016 shunichi onuma All Rights Reserved

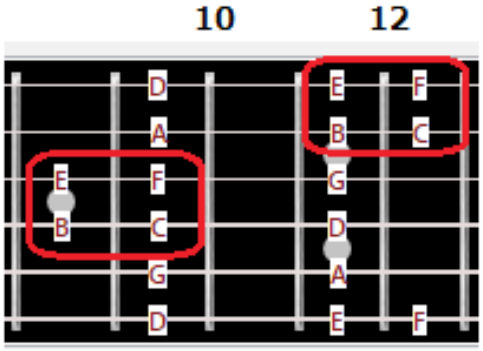


このポジションは、マイナーペンタとも重複していて、かつ、ドリアンの特徴音である、M6th の位置が分かりやすい便利なポジションです。

※赤丸が M6th の位置



ついでに言うと、先ほど解説した、「スケール内で半音で接するポイント」も、非常に見やすくなっていますね。

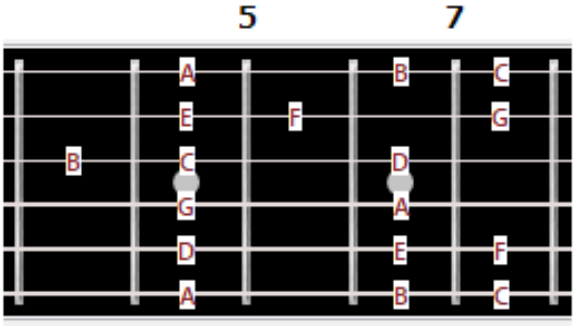


以前のテキストでもお話ししましたが、(※同じ調性内に存在する)ドリアンとリディアンは特徴音が一致しているので、スケールポジション内で意識する箇所が同じですね。
(※例えば C キーの調性内に存在する D ドリアンと F リディアンは特徴音が同じ)

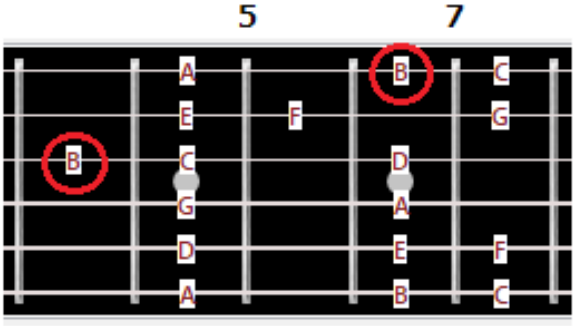
実際にプレイする時は、各音のインターバルが何にあたるか？が把握できていれば、ポジションとしては、C メジャー(アイオニアン)でも、D ドリアンでも、F リディアンでも、自分が一番わかりやすい見方を選んでいいでしょう。

Copyright (C) 2016 shunichi onuma All Rights Reserved

続いて 5 弦トニックの代表的なポジションですが、以下になります。

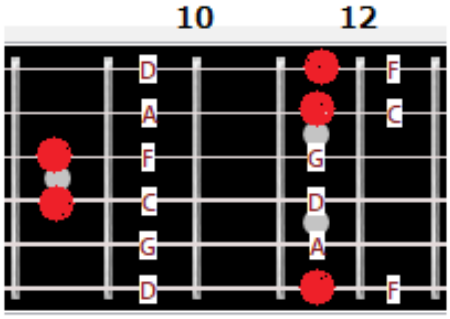


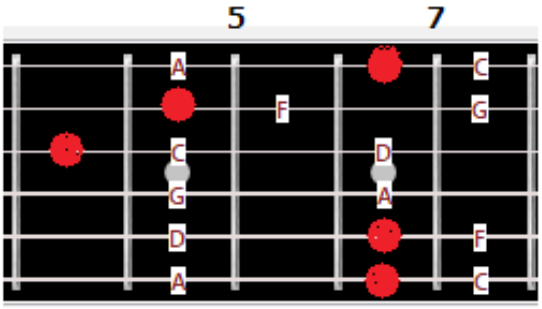
こちらも特徴音の位置を把握しておきましょう。



さて、これらの代表的なポジションですが、見ての通り、D マイナーペンタの使いやすいポジションと一致していますね。

スケールの構造的には、マイナーペンタに M2nd(9th)と M6th(13th)を加えたものがドリアンなので、フレージングとしては、マイナーペンタ+α 的な弾き方も可能です。

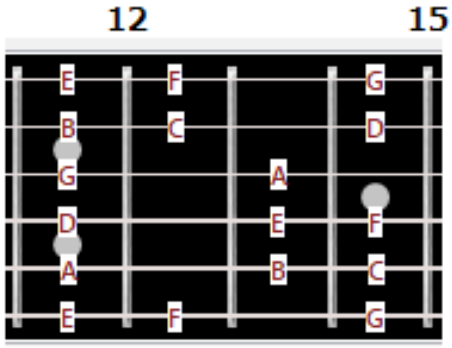




Copyright (C) 2016 shunichi onuma All Rights Reserved

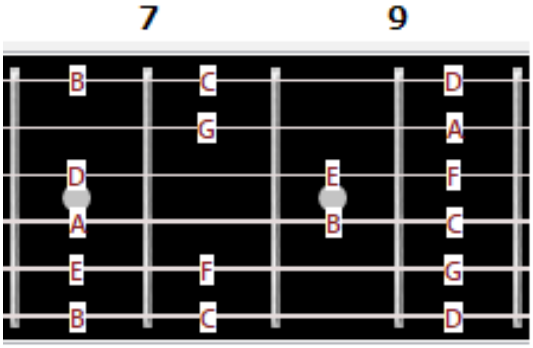
この辺り、ダイアトニックスケール的に弾くのか、ペンタトニック+α 的に弾くのかで、出てくるフレーズが少し変わってきます。

他にも、使いやすいポジションとしては、F リディアンとして覚えたここや、



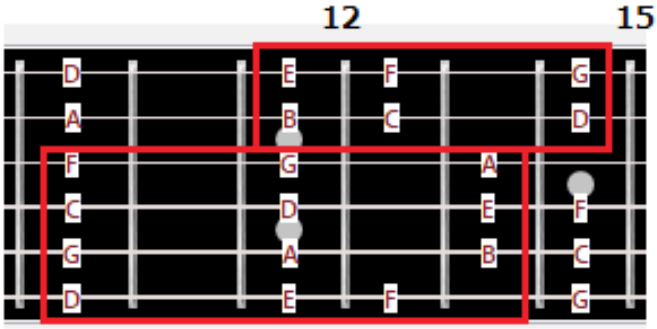
(※E フリジアン、G ミクソリディアンと見ても良い)

C アイオニアンとして覚えたこの辺りが、左手のストレッチや左右のフレット移動が無くて弾きやすいですね。



(※B ロクリアンと見ても良い)

逆に、それなりに細かいフレーズや速いパッセージを弾く場合は、多少、ストレッチになりますが、スリーノート・パー・ストリング的な見方で弾くのもアリです。



この見方の方が、レガート系のフレーズやフルピッキング系の速弾きなどが、弾きやすくなるはずです。

Copyright (C) 2016 shunichi onuma All Rights Reserved

結局、今、設定しているトニックの位置とインターバルさえ分かっていれば、弾くもの自体はCメジャースケールなので、ポジションの把握にはそこまで苦労しないでしょう。

やはり重要になって来るのは、ドリアンの特徴音であるM6th(と、その周辺)の使い方と、次点で、M2nd(9th)あたりをどの様にフレーズに入れていくのか？ですね。

これらの強調の仕方が、マイナーペンタや他のマイナー系モードとの差別化に繋がっていきますので。

それでは、次回に続きます。

ありがとうございました。

大沼

Copyright (C) 2016 shunichi onuma All Rights Reserved